

令和3年 3月 31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 静岡県浜松市中区下池川町34番3号  
管理機関名 学校法人 信愛学園  
代表者名 服部 泰啓

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年 4月 10日(契約締結日)～ 令和3年 3月 31日

2 指定校名・類型

学校名 浜松学芸高等学校  
学校長名 内藤 純一  
類型 地域魅力化型(C1910)

3 研究開発名

「地域創造コース」による地域の活性化に挑む学校

4 研究開発概要

地域創造コースの生徒を迎えて開発したカリキュラムの実践検証の年と位置づけ、地域創造コース1年生では地域企業との小プロジェクトを複数回実施し、地域の魅力を多面的・多角的に捉える視点を養います。高校2年生以降は、クエストエデュケーションの先行実践を引き続き行います。実践の教材化への検証と実践成果の地域への還元、他地域への波及について実践研究を行います。

浜松学芸高校では、地域の魅力発信に衣食住の身近な観点から取り組み、既存の学力観だけでないアイデアを形にする力をArtととらえ、実践した取り組みを地域魅力化として還元します。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- |             |        |   |         |
|-------------|--------|---|---------|
| ・学校設定教科・科目  | 開設している | ・ | 開設していない |
| ・教育課程の特例の活用 | 活用している | ・ | 活用していない |

## 6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
学校法人 信愛学園 理事長	服部 泰啓	
浜松学芸高校 校長	内藤 純一	
浜松学芸高校 副校長	原田 豊治	
浜松学芸高校 教頭	内田 敏勝	
浜松学外高校 普通科長	藤井 茂	
プロジェクトリーダー（教諭）	大木島 詳弘	

## 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
学校法人 信愛学園 理事長	服部 泰啓
株式会社サツ川製作所	薩川 敏
遠州ビジネス交流会	水野 久美子
浜松ベジタブル	池田 克信
株式会社 白井商事	白井 成治
永田木材 株式会社	永田 琢也
ヤタローグループ	渡部 尚樹
浜松学芸高校 校長	内藤 純一
浜松学芸高校 副校長	原田 豊治
浜松学芸高校 教頭	内田 敏勝
浜松学芸高校 普通科長	藤井 茂
プロジェクトリーダー（教諭）	大木島 詳弘
担当教員	四ツ谷 昌彦

## 8 カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	岸川 政之	皇學館大学 現代日本社会学部・教授 内閣府 地域活性化伝道師	委託
海外交流アドバイザー			
地域協働学習支援員	小川 良徳	浜松学芸高校	非常勤

## 9 管理機関の取組・支援実績

本年度はコロナウイルスの影響もあり、成果を外部に発信する活動を大規模に行うことができませんでした。このような状況下ではありましたが、管理期間の主導のもと外部から視察や意見交換の場を設定することができました。本年度は、運営機関・コンソーシアム・専門家との連携を進め、研究実践を行うことができました。

### （1）実施日程

10月29日 静岡県教育委員会の視察	静岡文化芸術大学の池上教授を筆頭に14名の静岡県教育委員会関係者が来校し、本研究実践の構想や成果の報告と実際に生徒との意見交換を行った。視察は、本年度の状況を考慮し地域への研究成果発表の場としても位置づけた。この報告によって、令和3年度に静岡文化芸術大学との高大連携の協働プロジェクトの実践を授業として行うことや静岡大学での成果報告につながった。
-----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

11月5日 静岡県校長会の視察	静岡件校長会の先生方8名が来校され、本研究実践の構想や成果の報告と実際に生徒との意見交換を行った。視察は、本年度の状況を考慮し地域への研究成果発表の場としても位置づけた。県内の他地域へ実践を拡散するために、学校向けの報告会は有効だと感じた。
12月8日 静岡文化芸術大学との協働検討会	10月の視察を受け、本校で実践しているプロジェクトを高大連携プロジェクトとして実施する可能性について、意見交換や実施に向けて改善していくべき点について共有を行った。来年度に向け、協働動画プロジェクトを実施する計画につながった。
12月8日 静岡大学での実践発表	10月の視察を受け、静岡大学教育学部の教授や内地留学の先生方を対象に、本研究実践の構想や成果の報告と意見交換を行った。コースの前身となる社会科学地域調査班の卒業生が同大学に在籍しており、地域での学びが将来的なキャリア形成に大きな影響を及ぼしていることを確認した。本校での実践を、静岡大学の武井先生が執筆する書籍に寄稿させていただくことになり、令和3年度の出版に向けてこれまでの取り組みの理論化を進めている。
2月14日 共育ネット主催の「高校生サミット」にて取り組み発表	10月の視察を受け、静岡共育ネット様から県内の高校生と地域での取り組みの報告と意見交換を行う場に招待いただいた。校内での実践で完結するのではなく、本校での実践を様々な地域で共有できるよう実践の教材フォーマット化するために生徒同士の共有をすすめた。本校活動はまだまだ広く認知されておらず、活動をどう共有していくかという課題が明確になった。
3月11日 静岡市東豊田中学校での実践発表	11月の視察を受け、静岡市東豊田中学校の教員や生徒・周辺校の教員にむけて、本校の本研究の成果報告と構想について報告した。成果報告については、1年生のプロジェクト型学習、2年生のクエストエデュケーションの取り組みについて、生徒自身がプレゼンテーションを行った。本研究指定校だけの取り組みだけでなく、地域の周辺校へ取り組みを拡散させることのできる報告の場を設定いただけた。

## (2) 実績の説明

### ①系統的カリキュラム構築とマネジメントの推進体制

本年度の研究実践は、実際に地域創造コースの生徒を迎え、構築したカリキュラムの実践検証を行うことでした。初年度の入学者は48名の2クラス体制での実施となりました。そのため、実践者としての教員を3名に増員し、より多くの視点から実践検証を行うことができました。カリキュラムを検討した外部からのコンソーシアムメンバーが、1年生で実践する5つの各プロジェクトの実施者となり、教員とともに成果報告までの取り組みを検証しました。その結果、実施するプロジェクトの順序や必要時間の他、1年間を通じた発表や表現の系統性について次年度への改善を行うことができました。

また、カリキュラム化を目指して先行実施していたクエストエデュケーションでは、昨年同様に社会科学地域調査班の生徒で検証を行いました。本年度は、1年間を通じた課題を設定し、地域の魅力を発信する動画制作に取り組みました。コンソーシアムメンバーのコーディネートにより、地域企業CMの受注や浜松市の公式動画制作の他に、観光甲子園の動画では全国6校の決勝に残ることができ

ました。年間を通じたクエストエデュケーションとして、一定の活動フォーマットができたと感じました。

多くの実践を重ねることで、問題点や期待される成果が見え始め、カリキュラム・教材としてプラットフォーム化する目処がつけました。こうした取り組みを、運営指導委員会や T-Labo・Y-Labo で共有・検証することが、カリキュラム・マネジメント上、非常に有効であったと感じました。本研究終了後も、コンソーシアムの外部メンバーが地域と学校をつなぐコーディネーターとして、そしてプロジェクトの実践者として機能できるようになりました。

## ②学校全体の研究開発体制について

本年度は、地域創造コース2クラス体制での実践を行いました。昨年度までは、中心となる教員が実践およびコーディネーターとしてだけでなく、生徒の興味関心と地域を結びつけた実践を行うファシリテーターとしての役割も担ってきました。本年度は、研究を実践する教員が3名になったため、ユニット制を用いて実践に取り組み、教員の特性に応じた教科横断的な取り組みや指導が行えるようになりました。

また、進捗状況や課題の迅速な確認・共有のため、本校では運営指導委員会と T-Labo を通してし、様々な視点やアイデアを導入し、実践者に偏ることなく学校全体で取り組みを支援する体制をと整えることができました。さらに、本年度は若手教員を中心とした Y-Labo での実践を共有化する研修会を実施し、全体的な取り組みを行うことができました。研究指定の終了後も地域との協働を進めていくために、この研修を通じて来年度2名のスタッフを増員することができました。

## ③カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

カリキュラムについては、高校1年生でプロジェクト型学習の系統性を中心に検証し、高校2年生のクエストエデュケーションではコンソーシアムの協力体制について検証しました。上記①に報告したように、高校1年生で実践したプロジェクト型学習では、コンソーシアムのメンバーと教員が実践を担当し、課題解決型のプロジェクトを実施しました。高校2年生次以降のクエストエデュケーションでは、コンソーシアムのメンバーが生徒のアイデアと地域の企業を繋ぎ、学校と地域の企業との協働を推進する大きな役割を担うようになり、地域の企業との協働が昨年度より大きく進む結果となりました。

## ④管理機関による外部発信

本年度は、コロナウイルスの影響もあり外部に向けた大規模な成果発表を行うことができませんでした。しかし管理機関の主導で、本校の活動に興味を持ってくださった方々の視察を受け入れることができました。大規模な発表会を実施するのではなく、小規模に実施することで単なる活動の報告だけでなく相互の意見交換や直接生徒の活動を視察していただいたり交流していただいたりという機会とすることができました。

また11月には、学校に地域の中학생や保護者を招いての活動報告会を実施することができました。実際にプロジェクトに挑戦してきた生徒達が自分たちの力でプレゼンテーションや展示を行うことで、見学にきた中學生達に活動の魅力を伝えることができたと感じました。その結果、次年度には40名を超える入学希望者が集まる事となった。

## ⑤行政機関との協定と高大連携

本年度も、浜松市より「青春はままつ応援隊」に認定いただき、浜松市の魅力発信に取り組むこと

ができました。本校生徒によって始まったこの制度は、現在周辺の2校が申請して利用しています。その結果、浜松市の公式動画制作を受注することができました。公式動画は生徒のクエストエデュケーションの一つであり、生徒たちの主体的な取り組みとして本年度はテレビや新聞など大きくとりあげられました。

また本年度の視察や意見交換を通じて、来年度には静岡文化芸術大学との協働プロジェクトとして大学生と高校生の協働に繋がりました。本校で実践しているポスターや動画のプロジェクトについて協働実践し、地域の企業だけでなく大学とも連携した地域での学びを模索する段階に到達することができました。

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

※コロナの影響で4～5月実施せず ※セルの赤は1年生、黄色は2年生、青は3年生の実践

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校紹介ポスタープロジェクト		6回	8回									
注染染色プロジェクト				6回	6回	3回						
森林公園 CM プロジェクト						5回	8回					
地域おにぎりプロジェクト								5回	6回	2回		
林業プロジェクト(予定)										4回	6回	
浜松市公式動画制作	2回	1回	4回	4回	3回	4回	4回	4回	1回	1回	1回	
観光甲子園 2021	4回	1回	4回	6回	8回	8回	8回	8回	8回	8回	1回	
天浜線ポスター展の実施				2回	2回	3回						
白山高校との協働プロジェクト						1回	2回	6回	4回			
浜松市科学館での浴衣イベント実施		3回	8回	6回								
第5回全国SBP交流フェア		2回	8回	8回	8回							

(2) 実績の説明

<p>学校紹介ポスタープロジェクト</p>	<p>①学校紹介用ポスターの制作          (ポスター制作を通じてデジタルによる Art 表現活動と発信方法を学ぶ)</p> <p>②地域創造コース1年生 初回プロジェクト (地域創造概論・地域創造演習)</p> <p>③Art の視点を取り入れたポスターをデジタル制作する魅力発信の手法を学んだ。卒業生による制作指導や情報科や美術科との連携など、教科を超えた活動を行った。</p> <p>④浜松市がデジタル・スマートシティを推進しており、地域の魅力発信も急速に進んでいるため、デジタル制作による魅力発信の方法について実践した。</p> <p>⑤オープンスクール等で成果発表を行い、地域の魅力を発信するコースとして地域に PR する効果があった。</p>
<p>注染染色プロジェクト</p>	<p>①地場産業の注染染めの配色提案          (地場産業の企業と連携した伝統的な染色技法を学び、新しい配色を提案)</p> <p>②地域創造コース1年生 第2プロジェクト (地域創造概論・地域創造演習)</p> <p>③地元の浴衣企業と染色工場と協働し、浴衣や染色をとりまく現状の確認や伝統技術の体験を通じて、課題の発見と新しい配色の提案に取り組んだ。</p> <p>④地場産業の魅力を体験し課題を発見することで、高校生の新しい色彩感覚や Art の視点を取り入れた提案を行い、企画の発信手法について技能を高めた。</p> <p>⑤実際に染色した生地が地域の金融機関のシートカバーや記念手ぬぐいに採用された。</p>
<p>森林公園 CM プロジェクト</p>	<p>① 静岡県立森林公園の利用促進 CM とポスター制作          (コマーシャルの手法を用いた CM 動画とポスター制作)</p> <p>②地域創造コース1年生 第3プロジェクト (地域創造概論・地域創造演習)</p> <p>③市内北部にある森林公園を舞台に、現地でのダンスパフォーマンスを取り入れた動画やポスターなど、魅力発見のためのフィールド調査に基づいた制作活動を行った。</p> <p>④現地の綿密なフィールド調査に基づき、音楽やダンスという動画ならではの表現方法を用いて、魅力の発信にコース全体で取り組んだ。</p> <p>⑤森林公園森の家の公式 HP で CM 公開とともに館内にポスター掲示を実施している。</p>
<p>地域おにぎりプロジェクト</p>	<p>①地域の食材と食文化を反映したご当地おにぎりメニューの開発</p> <p>②地域創造コース1年生 第4プロジェクト (地域創造概論・地域創造演習)</p> <p>③浜松市天竜区にオープンするミツワキ企業組合と協働し、地域食文化を反映したおにぎりを作成した。調理実習を何度も行い試作と改良を繰り返し、産地や原価など販売に向けた提案を行った。</p> <p>④衣食住の観点から地域の魅力化に取り組むなかで、食の観点を試作だけでなくコスト面からも考え、継続的な販売商品となるように取り組んだ。</p> <p>⑤コンソーシアムでの成果発表として実施した。試作したおにぎりは、来年度実際に店舗での販売に向け、市販化への改良を行う。</p>

<p>林業プロジェクト</p>	<p>①浜松市北部地域に広がる森林資源や林業の現場に向けたアイデア構築  ②地域創造コース1年生 第4プロジェクト（地域創造概論・地域創造演習）  ③浜松市北区にある永田木材と協働し、林業や中山間地域のかかえる問題の解決や魅力の発信にむけたアイデアを様々な視点から構築し提案する。  ④林業とそれを支える地域や産業に対して、生徒達が興味を持つ衣食住の視点から様々なアイデアを実現性も含めて検討した。  ⑤1年生の最終プロジェクトとして、各チームで様々な視点から提案を行った。実現性や有効性について理論的な組み立てに取り組み、永田木材様へのプレゼンテーションを実施した。</p>
<p>浜松市公式動画制作</p>	<p>①浜松市公式動画の企画・制作を通して、地域の魅力発信事業を実施  ②2年生のクエストエデュケーションの先行事例として実施  ③浜松市公聴広報課と「良い広告株式会社」と協働し、地域の魅力を発信する動画制作を行った。実際にプロの方の撮影や編集技術を用いて、企画提案からシナリオまでの監修も行った。  ④単なる産業や観光紹介ではなく、戦隊もののストーリーを用いたシナリオづくりや演出を行うことで幅広世代に訴求する動画となるよう取り組んだ。  ⑤浜松市の公式 YouTube にて9月より公開され、現在全6話を制作・公開完了し、次年度へ向けての企画中である。</p>
<p>2020 全国高校生グローバル観光コンテスト(観光甲子園)を通じた観光魅力発信プロジェクト</p>	<p>①地域の魅力を活かしたインバウンド向け観光プランの構築プロジェクト（フィールド調査の結果を活かした観光プランの構築と発信）  ②2年生のクエストエデュケーションの先行事例として実施  ③学校設定教科の「地域創造」で蓄積したフィールド調査の結果を活かした探究活動として、観光プランの構築過程を教材化に取り組んだ。  ④これまでの活動で蓄積した地域の魅力を観光プラン化することで、取り組んだ内容を構造化したり、表現・プレゼンしたりする力の育成に取り組んだ。自分たちの活動や考えを外部からの視点で評価していただくことで、多面的・多角的な視野の育成につながっている。  ⑤「住んでいる人が好きな街は、訪れる人も幸せな街」をコンセプトに、地場産業の魅力をプラン化した。2月に行われる決勝最終選考の全国6校に選出され訪日観光部門で2連覇となる全国1位グランプリを獲得した。</p>
<p>天浜線ポスター展の実施</p>	<p>①活動成果発表のための企業との協働と地域外への活動の拡散への取り組み  ②2年生のクエストエデュケーションとして先行実施  ③天竜浜名湖鉄道と松坂屋静岡店と協働して、活動成果の発表に向けた発信方法の検証に取り組んだ。  ④地域魅力化の成果をより多くの方々へ伝えるために、すべてのプロジェクトを報告するのではなく、プロジェクト毎に成果披露する場所や形態を変えることに取り組んだ。  ⑤展示会を見ていただいた天浜線沿線市町村からの展示依頼や、他校からの問い合わせにつながり、成果報告として取り組みを拡散させる役割を果たした。</p>

<p>白山高校との協働プロジェクト</p>	<p>①三重県立白山高校との地域魅力発信ポスター協働制作プロジェクト (本校ポスター制作プロジェクトによる魅力発信の教材化検証)</p> <p>②2年生のクエストエデュケーションの先行事例として実施</p> <p>③本校が得意として取り組んできた Art の力で地域の魅力発信するプロジェクトとして実施した。綿密なフィールド調査と地域魅力の再発見し、これを美術、特に画像編集の技術を用いてポスター化に取り組んだ。</p> <p>④「地域の魅力は観光地など特別な場所ではなく、自分たちの日常にあふれている」という、これまでの実践を通じて生徒が感じてきたことを、他地域でも共有するための取り組みとして実践した。さらに、本校だけでなくポスタープロジェクトが他地域でも単独実践できるように、教材としてのプラットフォーム化をするための問題点の検証を行った。</p> <p>⑤2日間の合宿としてアイデアソン形式で行い、教材として活用する際の展開方法について検証できた。白山高校のバックアップもあり、完成したポスター作品は現地ニュースでも取り上げられた。</p>
<p>浜松市科学館での浴衣イベント実施</p>	<p>①浜松市科学館での単独浴衣イベントの実施 (地場産業の魅力発信活動)</p> <p>②教育旅行での魅力発信活動の先行事例として実施</p> <p>③制作したポスター・染色した反物を使った浴衣・創作盆踊りと、これまで取り組んできた地場産業の魅力発信の成果報告としてイベントを活用した。</p> <p>④浴衣生産の街から浴衣を着てみたくなる街への変化を促すため取り組んできたオリジナルの染色や創作盆踊りの活動成果を、地域へ還元する発表の場として取り組んだ。</p> <p>⑤来場者や地域の方に向けてのアピールだけでなく、市の公式イベントとして行政との連携を行うことができた。またイベントを見た他企業からの出演オファーへと繋がった。</p>
<p>第5回全国SBP交流フェアでの成果報告</p>	<p>①青森県立鱒ヶ沢高校と協働したポスタープロジェクトの実践報告発表 (地域魅力化の取り組みの発表と外部視点の導入)</p> <p>②3年生のクエストエデュケーションの先行事例として実施。最終的な成果発表として、成果発信の可能性を検証した。</p> <p>③ビジネスの観点を用いた全国各地の様々な取り組みを発表する場であり、活動を通じた相互交流や他者の視点を取り入れる機会として有効である。また客観的な評価の場を設けることで、生徒の取り組みの目標として位置づけている。</p> <p>④地域の魅力を発信する場として、外部評価を得られるだけでなく生徒同士の交流の場があるため、広い視野の育成に大きな効果があった。</p> <p>⑤交流の結果から、青森県鱒ヶ沢高校との協働に発展したように、本校の活動フォーマットを広めていく効果があった。また、教材としての有効性が認められ、三重県立白山高校との協働プロジェクトへとつながった。</p>

## 1 1 目標の進捗状況、成果、評価

研究2年目となる本年度は、全体目標として計画したカリキュラムの検証、クエストエデュケーションの先行実践検証の2点を設定しました。

カリキュラムの検証については、高校1年次の実施日程に基づいた実践を行い、時間、順序の変更や系統性の検証を重ね、カリキュラム化することができました。学校設定教科の科目として「地域創造（概論・実践）」で実施し、5つのプロジェクトが段階に応じて系統的な到達目標になるよう、実践カレンダーを制作しました。また、教科として評価方法の実践・検証し、地域創造の授業を通じて、自己肯定感や将来に向けての意識が高まっているのを確認することができました。またポスター作成の取り組みを教材としてパッケージ化も進み、三重県立白山高校との協働実践で検証を行いました。協働制作によって、地域魅力発信に大きな効果があることを確認できたとともに、この活動が自分たちの地域だけでしか実施できない教材ではなく、幅広い地域の学校へ拡散できる教材として大きな手応えを感じました。

クエストエデュケーションでは、地域の魅力を発信するポスターやCM制作に取り組み、広告代理店という立ち位置でプロジェクトを実行しました。魅力発信においては、特にSTEAM教育のArtに注目し、Artを「アイデアを形にする力」と捉え、プロジェクトの成果や発信にデジタル技術を多く取り入れてきました。県内のテレビ局や浜松市の公式動画の受注・制作につながり、活動の広がりを感じました。このクエストエデュケーションの成果を、校外の外部評価の場として全国規模のコンテスト3件（第5回全国高校生SBP交流フェア・2020全国高等学校グローバル観光コンテスト・東京女子大学ビジネスプランニングコンテスト）に参加し、全国大会本戦で取り組み内容をプレゼンしました。第5回全国高校生SBP交流フェアでは全国2位、観光甲子園2020訪日観光部門では全国1位となるグランプリを2年連続で受賞するなど高い評価をいただき、生徒の自己肯定感を高めるとともにクエストエデュケーションの成果発表として有効であったと感じました。

### <添付資料>目標設定シート

## 1 2 次年度以降の課題及び改善点

本年度の実践を振り返り、次年度以降の課題として以下の3点を考えています。

### ①系統的なカリキュラムの検証

本年度は地域創造コースの高校1年生用のカリキュラムとして構築した5つのプロジェクトを実施し、学びの系統性を検証しました。次年度は、高校2年生としてクエストエデュケーションを実施するため、1年間の地域魅力発信の取り組みから、高校3年生に向けて系統的に学びをどう深めるか点が大きな課題です。自分たちの地域内への発信はもちろん、外部のコンテストや報告会を利用して、外部の視点から地域での取り組みの評価を受けることを学びの系統性に組み込みたいと考えています。

### ②地域魅力化の取り組み成果の発表・発信

上記①でも述べたように、成果の発信は大きな課題として残っており、本年度のように多くの方々を集めることができない状況が想定されます。次年度は、外部の大学や団体のコンテストや報告会を通じて、外部の視点から本校の取り組みの評価をうける機会を設定したいと考えています。地域魅力化はその地域限定の魅力や取り組みだけでなく、魅力化の方法を検証することに意義があると考えています。生徒達の実践を様々な地域でも取り入れることができる魅力化の実践例として、フォーマット化を進めていきたいと考えています。

### ③教科横断的な取り組みやプロジェクト実施者の育成

本年度も、教科横断型の実践として、地域の魅力を詰め込んだ観光プランを構築する観光甲子園に挑戦しました。この観光プロジェクトは、SDGsの観点を取り入れた構想・動画制作・プレゼンテーションの3点から成っており、プロジェクトリーダーの私だけでなく美術や英語・情報の教員と協働で指導に当たりました。これにより、多くの視点で地域を捉えたり自分たちの活動を振り返ったりする機会を得ることができ、プロジェクトの実施には大きな成果となりました。またコース初年度は3名の教員がプロジェクトの実践にあたったため、多様な視点を取り入れた活動を行うことができました。プロジェクト型学習において教科横断型の取り組みでの協働体制や教職員の共通理解はこれからも大きな課題です。本研究3年目として、こうした教科横断の協働実践を積み重ねていき、学校全体での共通実践に移行できるよう体制の整備を進めていきたいと考えています。

#### 【担当者】

担当課	普通科 地域創造コース	TEL	053-471-5336
氏名	大木島 詳弘	FAX	053-475-2395
職名	教諭	e-mail	gakugei.s36@gmail.com